

# 国際教養大学長期ビジョン(2024-2033)

～秋田と世界を結び、未来に向けた価値と知の創造を目指して～

【概要版】

2024年4月



国際教養大学

## 本学の先駆的な取組が我が国の大学教育に大きな影響を与えた

- すべて英語の少人数教育、留学義務といった先駆的な取組が大学教育におけるグローバル化対応に大きく影響した。
- 本学のリベラルアーツ教育、特に知力と人間力を醸成する学びの仕組みが、大学教育の方向性に対する新たな示唆となった。

## 本県の英語教育や異文化理解の推進に寄与した

- 県内小学児童との異文化関連交流会を延べ数百回実施し、その過程で児童たちは外国人と触れ合うことへの壁を取り払い、物おじすることなく英語を話すようになった。

## 本学の取組が各界の注目を集め、本県の知名度を高めることに貢献した

- 本学の国際教養教育は、多くの大学、産業界、メディアの注目を集め、皇族、各国大使、政治家、大学・高校教育者など全国から多くの訪問客が絶え間なく来訪した。
- テレビや新聞、雑誌などが、本学の取組を全国に紹介し、本県の知名度を高めることにも貢献した。

## 本県の経済・社会の活性化に寄与した

- 日本全国、さらに世界51カ国・地域から集まった若者がコミュニティを形成し、県内全域で活動している。
- 本学の存在による経済波及効果は年間40億円と推計（2013年 秋田経済研究所）されるほか、「秋田ノーザンハピネッツ」をはじめ卒業生が県内で起業するケースも多く、経済的かつ社会的に多大な好影響をもたらしている。

## 国内における本学のプレゼンスを確立した

- 大学の世界展開力強化事業（2011-2015）、グローバル人材育成推進事業（2012-2016）、スーパーグローバル大学創成支援事業（2014-2023）といった文部科学省の大型外部資金を獲得しながら事業を展開し、国内プレゼンスを確たるものとした。
- 事業の成果は応用国際教養教育（A I L A）の導入に繋がり、更なる教育と研究強化に道筋をつけた。

## 高い教育力を実現する教育手法を確立した

- 本学の学生の卒業時の「データ・リテラシー能力」は米国の学生平均を上回っており、「論理的に書く力」と「問題解決力などの応用力」においても、米国のNon-Native（母語が英語でない）学生の平均を上回っている。
- Times Higher Education日本版（2023年）による大学ランキングでは、総合第15位、教育充実度では第2位を獲得したほか、国際性については、コロナ禍前の2017年～2021年まで連続して第1位となった。
- 本学の教育手法が「2023年度グッドデザイン・ベスト100」を受賞した。

## 環境の変化

### ■グローバル競争の激化

- 社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化し、その結果、人材の流動化、人材獲得競争などグローバル競争が激化

### ■地域間紛争が世界中に影響

- ロシアのウクライナへの侵攻がエネルギーや工業資材の供給面を中心に世界経済に大きく影響し、さらに、世界的な軍事緊張の高まりを誘発するなど、地域間紛争が世界中に影響

### ■感染症パンデミックの脅威

- 新型コロナウイルス感染症のパンデミックが社会生活や世界経済に大きく影響
- 本学でも海外留学等において、本来の学びの姿が維持困難となった一方、オンライン授業など、新たな学びの形態への可能性も

### ■社会が求める人材の変化と理工系人材育成の必要性

- 働き方改革、ジョブ型人材の雇用など、専門的知識を身につけた学生を採用する動きが進行
- 諸外国はデジタルや脱炭素など新たな成長分野への投資を加速化し、国でもそうした成長分野を担う理工系人材の育成を重視

### ■大学進学者数の減少

- 2033年度の大学への進学者数は2015年度の約85%の規模となると推定

## 本学の課題

- リベラルアーツ教育を堅持しつつ、社会の変化に対応し、デジタル技術の運用能力を兼ね備えた人材等の育成を図る必要がある。
- 変化のスピードが増し、先行き不透明な社会に対応できる人材を育成するため、応用国際教養教育（A I L A）により、統合知・人間力の双方にかかる教育の強化を図る必要がある。
- 公立大学として、本学の持つリソースやノウハウ、国内外の大学・企業などとの多様なネットワークを活用しながら、本県が抱える様々な課題への解決に向けて挑戦し、新たな価値の創造に貢献していく必要がある。
- 将来の大学進学者数の減少が見込まれ、さらに「国際教養」を掲げる大学・学部が増加する中、本学への志願者・入学者の数・質を確保していくため、他大学との差別化をより明確に打ち出すことが重要である。
- 管理棟をはじめ、老朽化が進む施設の改修・整備により、キャンパス全体の魅力を向上させる必要がある。
- 人件費や物価が増嵩する中、教育・研究環境を充実させながら大学の持続的な運営を行うため、財政基盤の拡充を図る必要がある。



## Mission: 使命

「国際教養教育」を教学理念に掲げ、グローバル社会におけるリーダーを育成

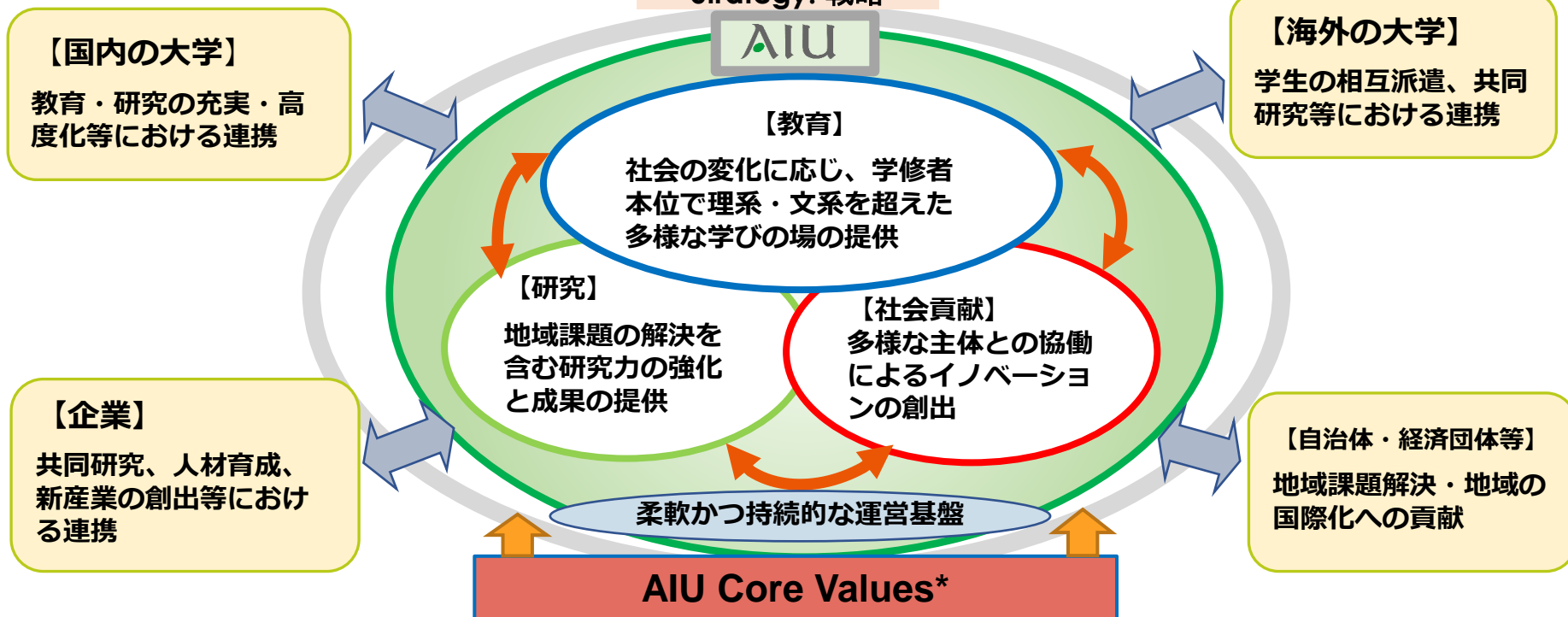
## Vision: 思い描く理想の大学像

リベラルアーツをベースに、社会の変化に応じた多様な学びを提供し、秋田と世界を結び、知識と実践力、さらには人間力を兼ね備えたグローバルリーダーにふさわしい人材を育成する大学

## Goals and Objectives: 達成すべきこと、到達点

イノベーションハブとして多様な主体と協働・連携しながら学生とともに秋田の課題解決に挑戦し、解決のための手法やネットワークを確立することで、それを活用しながら世界の課題解決に貢献できる人材の育成

## Strategy: 戦略



\*AIU Core Values : 大学を構成する学生・教職員が持つべき、次の3つの価値基準・行動指針  
『ダイバーシティと共に歩む』、『互いに高め合う』、『共に価値を創造する』

戦略の教育、研究、社会貢献、大学運営の4項目はそれぞれが連動しており、本学が「柔軟かつ持続的な運営基盤」（大学運営）をベースに、国内外の大学等と「地域課題の解決を含む研究力の強化と成果の提供」（研究）をさらに推進することにより、「多様な主体との協働によるイノベーションの創出」（社会貢献）へと結びつけるとともに、そうした取組に学生が参画することにより、「社会の変化に応じ、学修者本位で理系・文系を超えた多様な学びの場の提供」（教育）を数多く実現し、グローバルリーダーにふさわしい人材を育成

## 教育 ～社会の変化に応じ、学修者本位で理系・文系を超えた多様な学びの場の提供～

### ■ 社会の変化に応じた教育の展開

- 「国際教養教育」を推進するとともに、DXやGXなど、社会の変化、成長分野に対応した教育を展開

### ■ 学修の深化

- 知識を現実課題に対して学際的に応用・実践する経験を通して、知的かつ人間的成長を促す応用国際教養教育（A I L A）を展開することにより、より一層の国際教養教育の充実による統合知を強化
- 能動的学修センター（ALC）等の学内の資源を活用した取組により、応用国際教養教育（A I L A）の理念に基づく教育分野の活動を進化
- 先端技術を持つ企業による講座の開設や寄附講座など、企業との連携により、社会の変化を踏まえた実践的な学びを充実
- 東北大学、奈良先端科学技術大学院大学等との連携を深め、他大学の強みと本学の強みを掛け合わせた人材を育成
- 教学IRの取組により、多様な視点からの学習到達度の検証を行い、カリキュラムを改善
- 専門職大学院における教育体系や教育内容について継続的に見直すなど、大学院教育の充実に向け検討

### ■ 国際的なキャンパスとしての環境の充実

- 提携大学からの交換留学生の数の確保と質の充実を図るとともに、留学生への魅力向上のため、日本語・日本文化に関する科目を深化

### ■ 意欲のある多様な学生の確保

- 4月入学と9月入学の併用、多種類の入試制度の使い分けにより、多様な人材を確保するとともにグローバル人材の素質をもった学生を発掘
- オープンキャンパス等を通じて、本学の特長や求める学生像等を明確に発信するとともに、SNS等の活用により新鮮な情報を迅速に発信

### ■ 学生生活の充実

- 学生支援におけるDEI\*の推進により、多様な背景を持つ学生それぞれが尊重されるとともに、心理的・物理的障壁を取り除く制度や環境を整備  
\*DEI : Diversity (多様性) ,Equity (公平性) & Inclusion (包括性)
- 学生寮・学生宿舎での共同生活をはじめ「テーマ別ハウス」の取組など、学生生活すべてを教育の場にとらえ、授業内外で学生が成長できるよう支援し、応用国際教養教育（A I L A）の柱の一つである人間力強化を推進
- きめ細かなキャリアサポートの取組を推進するとともに、起業に関する情報提供の充実など、学生の多様なキャリア選択への支援を強化
- より高い専門性を身に付けたい学生を対象に、国内外の大学院への進学をサポート
- 24時間365日の図書館利用環境を継続するとともに、能動的学修センター（A L C）における学生の自律的学修に向けた機能を充実

## 研究 ～地域課題の解決を含む研究力の強化と成果の提供～

### ■ 地域課題に即した研究の充実と地域への成果の提供

- 健康寿命の延伸、再生可能エネルギーの導入等の本県の課題の解決に向けた研究を行い、その成果の提供による社会貢献を推進

### ■ 国内外の提携大学との連携による研究の活性化

- 研究を目的とした海外提携校の増加を図り、オンラインを活用した共同研究（サイバー研究チームの設立）など、学術面での交流を活性化
- 「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」等の外部資金を活用し、国内の他大学等と連携した研究への取組の推進

### ■ 企業との連携・協働

- 本学がハブとなり、県内外の特色ある技術を持つ企業等と連携しながら、地域課題の解決に向けた学際的な視点からの研究とその高度化を推進
- 本学が地域や企業と協働し、研究を進める施設としての機能を果たすため、学内に地域協働の場を整備

## 社会貢献 ～多様な主体との協働によるイノベーションの創出～

### ■ イノベーションハブとしての機能強化

- 本学がハブとなり、国内外の大学や企業など多様な主体と連携しながら、その研究成果により新産業を創出
- 学内に地域協働の場を整備することによるハブ機能の充実

### ■アントレプレナー教育の推進

- 地域で活躍する人材の輩出に向け、東北大学をはじめ国内外の大学等と連携し、起業を目指す人材を育成するプログラムを構築
- 県内企業の課題解決への学生の参画、学生のデザイン思考の高度化、さらには起業意識の醸成を促進

### ■ 地域の国際化への貢献

- 県内自治体等と連携し、学生の参加による国際理解に関するプログラムを作成するなど、地域の国際理解を促進
- 「イングリッシュビレッジ」の実施によりこれまでに蓄積したリソースを活用し、同事業の内容を更に深化
- ティーチアーズセミナーや日本語教育人材研修の充実などにより、地域の英語教育・日本語教育の高度化を推進

### ■ 卒業生等のネットワークを活用した地域貢献活動

- 同窓会組織との連携を充実・強化し、秋田県関係の情報発信の取組等、地域貢献への参画を促進
- 留学生帰国後も関係を継続することにより、本県と世界との草の根ネットワークづくりを促進



## 大学運営 ～柔軟かつ持続的な運営基盤～

### ■ 施設整備構想に基づく整備の推進

- 管理棟（A棟）を整備し、学生サービスの向上と事務の効率化を図るほか、研究環境を向上
- 学生会館（F棟）の改修により、地域の方々が利用できる開放的な空間を整備し、大学が地域や企業と協働して研究を進める機能を実現
- 講義棟（B棟・C棟）や学生会館（F棟）の長寿命化を図り、学修環境を維持・向上
- シンボル性のあるランドスケープの整備により、キャンパスの魅力向上を図るとともに、将来的なニーズに対応したキャンパス整備を検討

### ■ 財政基盤の拡充

- 研究資金における外部資金の獲得などによる財政基盤の拡充
- 大学が徴収する授業料の増額も視野に入れながら、学生納付金の見直しによる収入の確保を検討

### ■ 機動的で持続的な大学運営体制の確立

- 教学マネジメントを基本とした大学運営の実施
- 全世界から公募により優れた教員を採用するとともに、ファカルティ・ディベロップメントの充実強化により、教員全体の資質を向上
- 効率的かつ柔軟な働き方の推進や、多様性を重視した誰もが働きやすい環境を整備することにより、能力のある教職員の長期定着や優秀な教職員の採用に結びつけるとともに、長期的な視点に立ち、人材を育成
- 教職員評価をはじめとしたマネジメント、業務の効率化や職員の能力向上等により、運営の効率化を推進
- 学内のDXやDEIの推進による、作業の効率化・職場環境の向上



多文化共生のキャンパスライフ



AIU×秋田県内企業連携プロジェクト  
(フランスの見本市における稲庭うどん出展をサポート)



国際協働課題解決型プロジェクト  
(タイで「持続可能なコミュニティ開発」を探索)